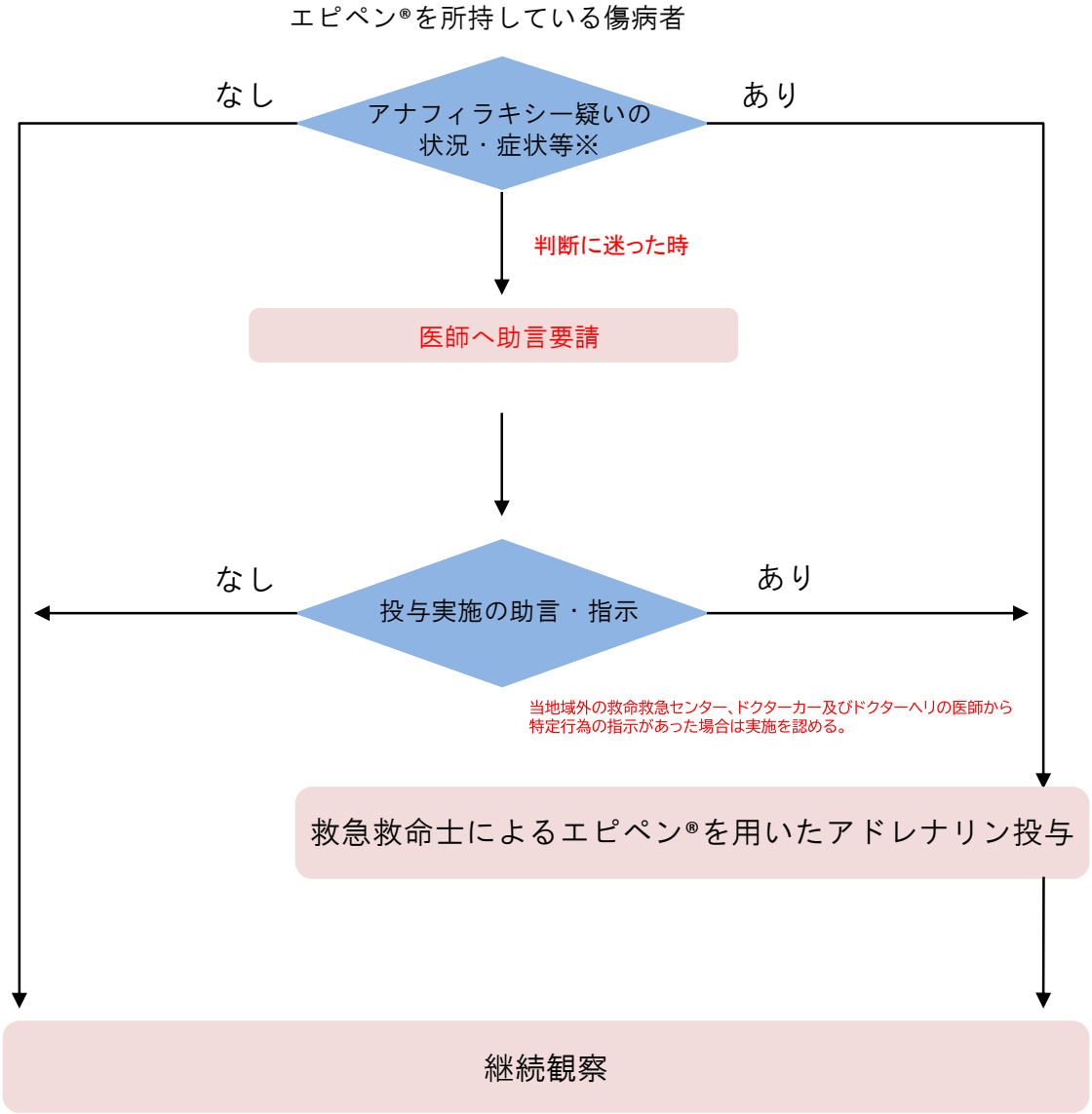
埼玉県東部地域MC協議会　エピペン®投与プロトコール



※アナフィラキシーの症状と判断

原則として以下の症状が2臓器以上に渡って現れた場合にアナフィラキシーと判断する。

観察項目	自覚症状	他覚症状
皮膚	全身性掻痒感、発赤、蕁麻疹、 限局性掻痒感、痒み	血管性浮腫、皮膚の蒼白、一過性紅潮、 眼瞼・口腔内粘膜浮腫
消化器	口腔内掻痒感、違和感、軽口唇腫脹、 悪心、腹痛、腹鳴、便意、尿意	糞便、尿失禁、下痢、嘔吐
呼吸器	鼻閉、くしゃみ、咽頭喉頭の掻痒感、 絞扼感、嚥下困難、鼻水、胸部絞扼感	嗄声、犬吠様咳嗽、喘鳴、チアノーゼ、 呼吸停止、呼吸困難
循環器	頻脈、心悸亢進、胸内苦悶	不整脈、血圧低下、重度除脈、血圧低下、 心停止、脈拍減弱
神経	活動性変化、不安、軽度頭痛、死の恐怖感、 四肢末梢の痺れ、耳鳴り、めまい	意識消失、痙攣
全身	熱感、不安感、無力感、冷汗	発汗、全身虚脱

総務省消防庁「消防機関における自己注射が可能なエピネフリン製剤の取り扱いに関する検討会報告書」(2009)から引用一部改編

救急救命士によるエピペン®を用いたアドレナリン投与の手順

① 使用前にエピペンの使用期限、薬液の変色や沈殿物の有無を確認するとともに**エピペン貼付の連絡シートにより傷病者本人の物であることを確認**する。

② 青色の安全キャップを外す。

③ エピペンの先端に指や手をあてることなく、中央部を握る。

④ 大腿の前外側の皮膚に、直角(90度)に「カチッ」と音がするまで強く押し付ける。

⑤ 注射液が確実に出るよう、5秒間保持する。

⑥ 穿刺部位を数秒間揉む。

⑦ 針が出ていることを確認し、ハザードボックスに破棄する。
（針が出ていなければ④に戻る）

⑧ 使用したことについて、搬送先の医療機関に伝達する。

⑨ 使用したことを救急救命処置録(活動記録票)に記載する。
エピペンを救急救命士が使用した場合は事後検証を行う。